

大垣農業振興地域整備計画に関する意向調査結果

平成 27 年 3 月
大垣市経済部農林課

○調査の概要

大垣市の農家世帯を対象に意向調査を行った。調査の実施方法は、農家台帳より無作為に抽出した農家世帯 450 戸に、郵送による配布・回収を行いました。

調査の実施期間は、平成 26 年 11 月 14 日（金）～平成 26 年 12 月 15 日（月）であり、配布数は 450 部、回収数は 339 部、回収率は 75%となりました。

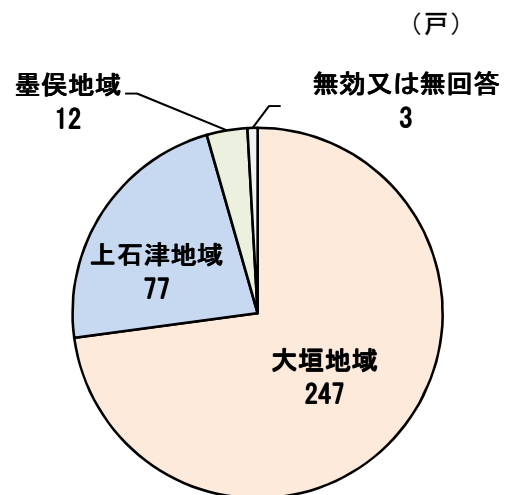
単位：戸

配布数	回収数	回収率
450	339	75%

I 回答者の属性

①回答者の住まい（地域）

回答者の住まいは、「大垣地域」は 247 戸（73%）、「上石津地域」は 77 戸（23%）、「墨俣地域」は 12 戸（4%）となりました。



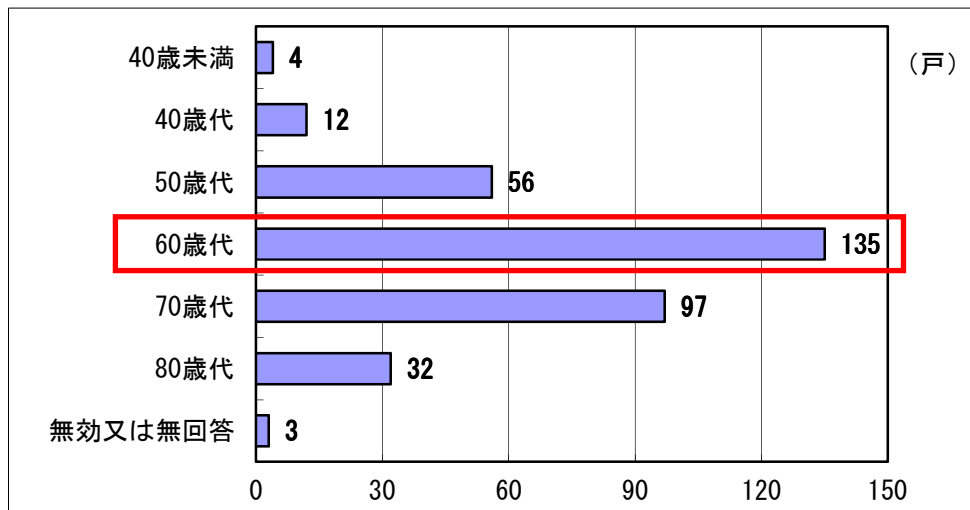
単位：戸

	大垣地域	上石津地域	墨俣地域	無効又は無回答	計
回答者数	247	77	12	3	339
	73%	23%	4%	1%	100%

②回答者の年齢

回答者の年齢は、「60歳代」と回答した世帯が最も多く 339 戸中 135 戸（40%）となりました。続いて「70歳代」と回答した世帯は 97 戸（29%）、「50歳代」と回答した世帯は 56 戸（17%）となりました。

一方、「40歳未満」と回答した世帯は 4 戸（1%）、「40歳代」と回答した世帯は 12 戸（4%）となりました。



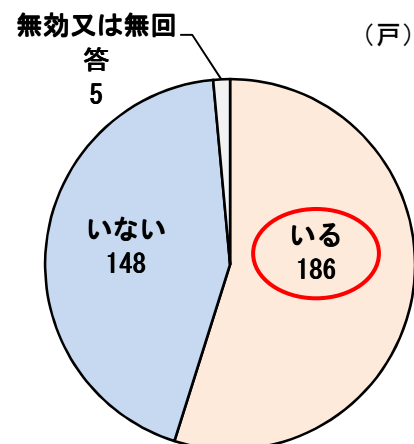
単位：戸

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	無効又は無回答	計
回答者数	4	12	56	135	97	32	3	339
	1%	4%	17%	40%	29%	9%	1%	100%

③農業後継者の有無

農業後継者（後継ぎ）の有無は、「後継者がいる」と回答した世帯が最も多く 339 戸中 186 戸（55%）となりました。

一方、「後継者はいない」と回答した世帯は 148 戸（44%）となりました。



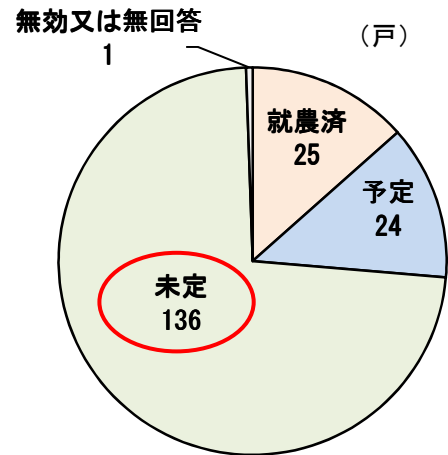
単位：戸

	いる	いない	無効又は無回答	計
回答者数	186	148	5	339
	55%	44%	2%	100%

④後継者の農業就業状況

「後継者がいる」と回答した 186 戸のうち、「家の後継ぎはするが、農業をやるかどうかは未定」と回答した世帯が最も多く 136 戸（73%）となりました。

一方、「既に農業をはじめている」と回答した世帯は 25 戸（13%）、「今は農業をしていないが、将来は農業をする予定」と回答した世帯は 24 戸（13%）となりました。



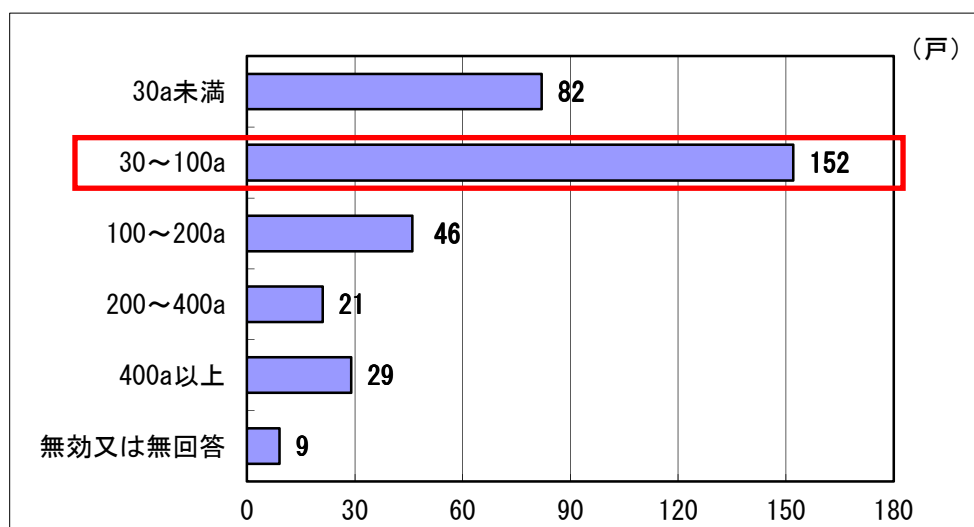
単位：戸

	就農済	予定	未定	無効又は無回答	計
回答者数	25	24	136	1	186
	13%	13%	73%	1%	100%

⑤現在の農業経営面積

現在の農業経営面積は、「30～100a」と回答した世帯が最も多く 339 戸中 152 戸（45%）となりました。続いて「30a 未満」と回答した世帯は 82 戸（24%）、「100～200a」と回答した世帯は 46 戸（14%）となりました。

一方、「400a 以上」と回答した世帯は 29 戸（9%）であり、8 割以上が 200a 未満の農業経営面積となりました。



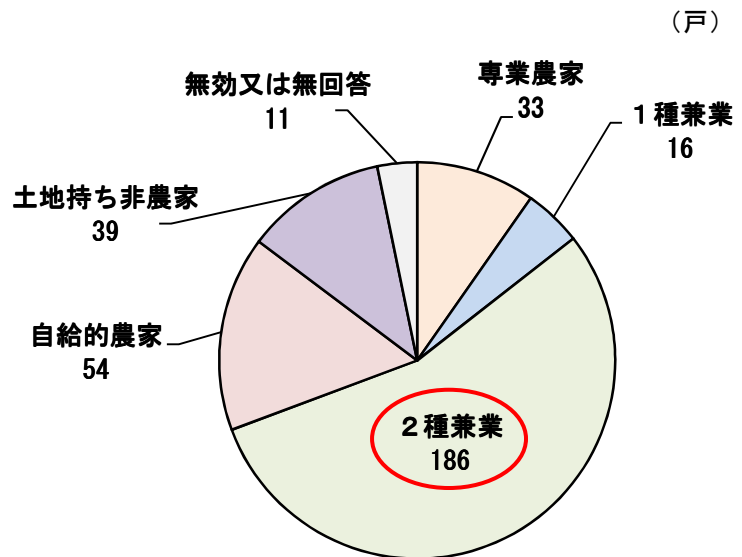
単位：戸

	30a未満	30～100a	100～200a	200～400a	400a以上	無効又は無回答	計
回答者数	82	152	46	21	29	9	339
	24%	45%	14%	6%	9%	3%	100%

⑥専兼業別農家

専兼業別農家は、「第2種兼業農家」と回答した世帯が最も多く 339 戸中 186 戸（55%）となりました。

一方、「専業農家」と回答した世帯は 33 戸（10%）、農業収入が農業外収入より多い「第1種兼業農家」と回答した世帯は 16 戸（5%）となりました。また、農地を所有しているが耕作はしていない「土地持ち非農家」と回答した世帯は 39 戸（12%）となりました。

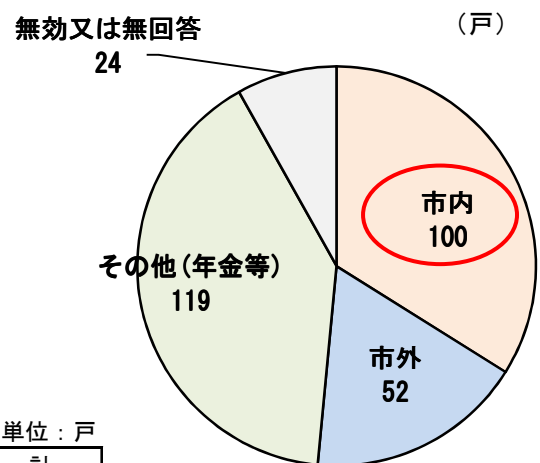


単位：戸

	専業農家	1種兼業	2種兼業	自給的農家	土地持ち非農家	無効又は無回答	計
回答者数	33	16	186	54	39	11	339
	10%	5%	55%	16%	12%	3%	100%

⑦兼業農家、土地持ち非農家の就業先

兼業農家又は土地持ち非農家と回答があった 295 戸のうち、農業以外の勤め先は「市内」と回答した世帯が 100 戸（34%）、「市外」と回答した世帯は 52 戸（18%）となりました。また、「その他（年金等）」と回答した世帯は 119 戸（40%）となりました。

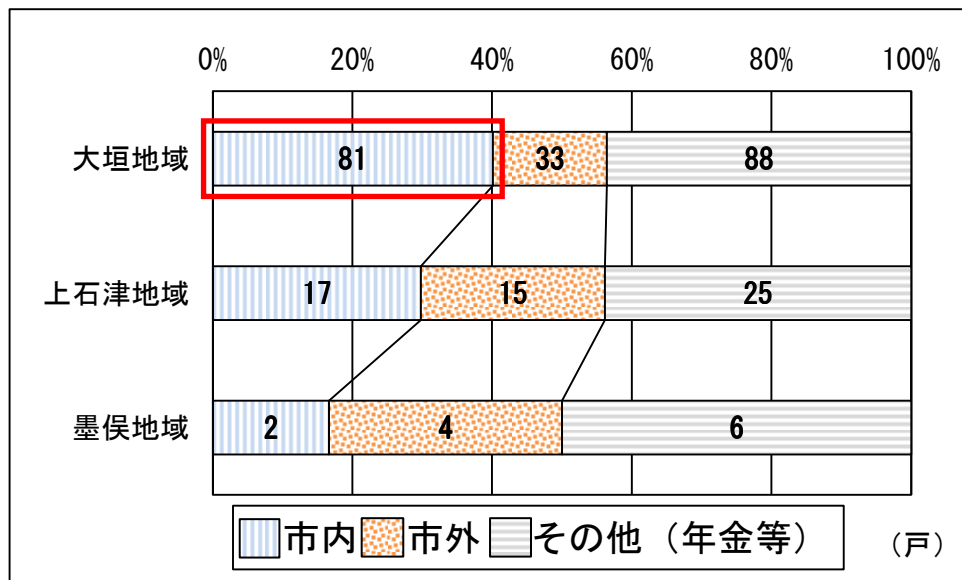


単位：戸

	市内	市外	その他(年金等)	無効又は無回答	計
回答者数	100	52	119	24	295
	34%	18%	40%	8%	100%

本問を地域別にみると、大垣地域は、上石津地域及び墨俣地域と比較して農業以外の勤め先は「市内」と回答する傾向が高くなりました。

【地域別の就業状況】

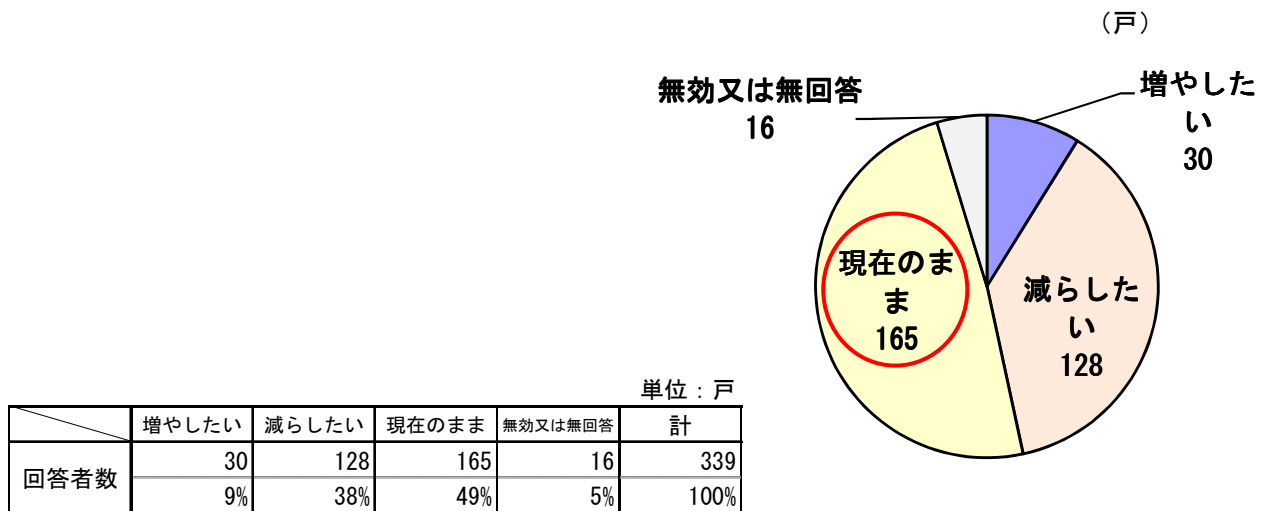


Ⅱ 農業について

問1 将来の農業経営面積

将来（10年後）の農業経営面積は、「現在のまま」と回答した世帯が最も多く 339 戸中 165 戸（49%）となりました。続いて「減らしたい」と回答した世帯は 128 戸（38%）となりました。

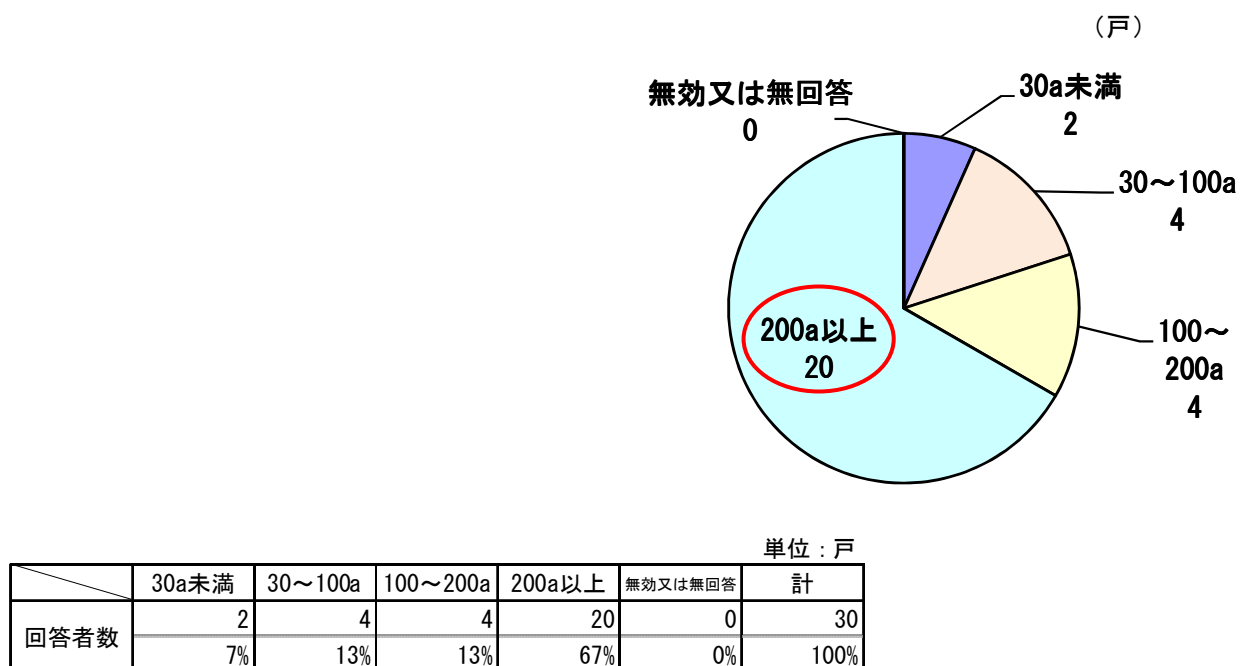
一方、「増やしたい」と回答した世帯は 30 戸（9%）となりました。



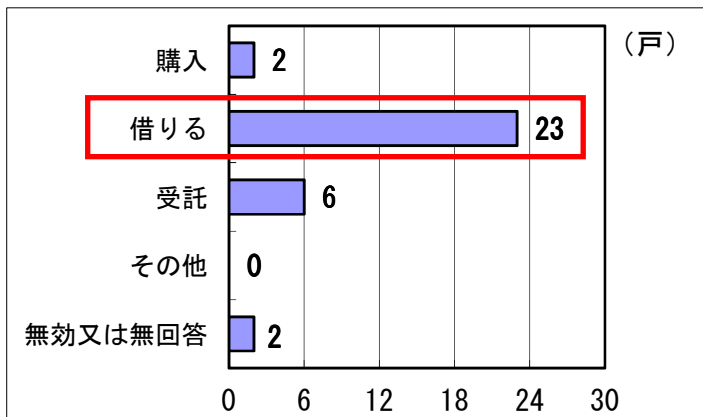
問2 増やしたい面積及びその方法

将来の農業経営面積を「増やしたい」と回答した 30 世帯のうち、増やしたい面積は「200a 以上」と回答した世帯が 20 戸（67%）で最も多く、続いて「30～100a」、「100～200a」と回答した世帯はそれぞれ 4 戸（13%）となりました。

規模拡大を希望する農家は、ある程度まとまった面積を拡大したい傾向となりました。



将来の農業経営面積を増やす方法は「農地を借りる(利用権設定など)」と回答した世帯が23戸(70%、複数回答含む)と最も多く、続いて「農作業を受託する(請け負う)」と回答した世帯は6戸(18%、同)となりました。



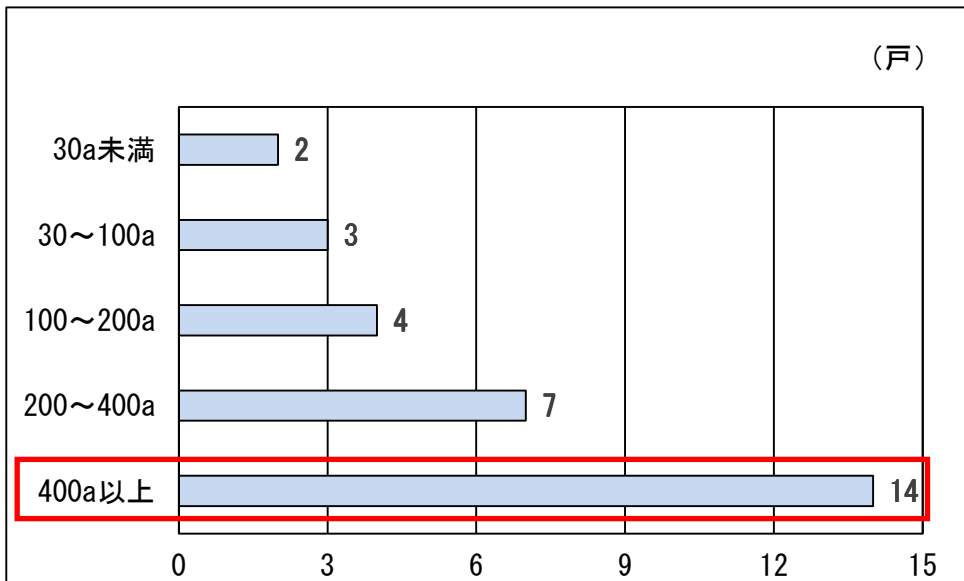
単位：戸

	購入	借りる	受託	その他	無効又は無回答	計
回答者数	2	23	6	0	2	33
	6%	70%	18%	0%	6%	100%

注) 複数回答含む

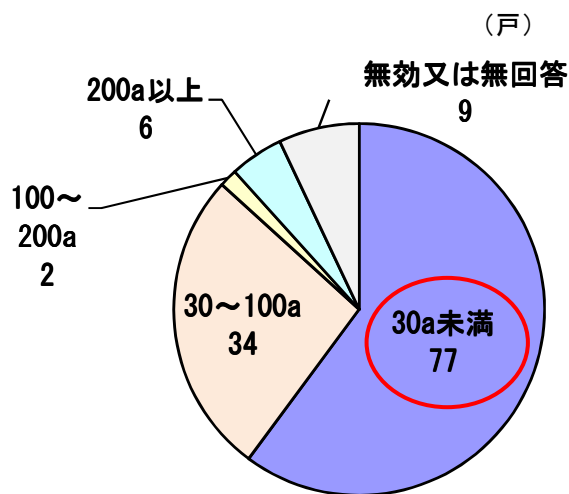
将来の農業経営面積を「増やしたい」と回答した世帯30戸の現在の農業経営面積は、「400a以上」と回答した世帯が14戸で最も多く、市全体の傾向より、現在の農業経営面積が大きい傾向となりました。

【「増やしたい」と回答した農家の現在の農業経営面積】



問3 減らしたい面積及びその方法

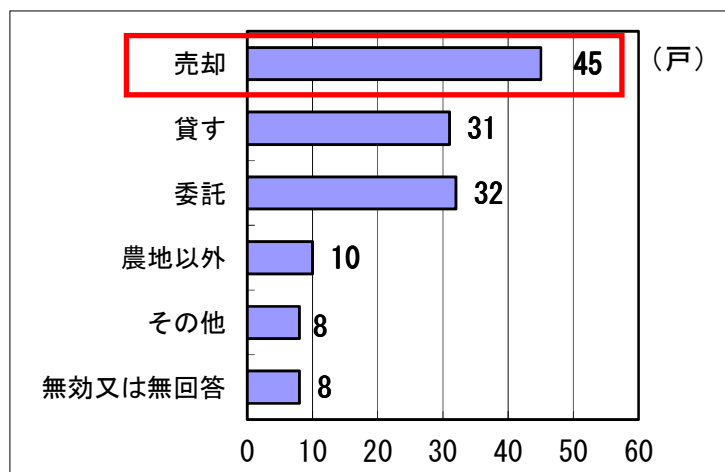
将来の農業経営面積を「減らしたい」と回答した128世帯のうち、減らしたい面積は「30a未満」と回答した世帯が77戸（60%）と最も多く、続いて「30～100a」と回答した世帯は34戸（27%）となりました。



単位：戸

	30a未満	30～100a	100～200a	200a以上	無効又は無回答	計
回答者数	77	34	2	6	9	128
	60%	27%	2%	5%	7%	100%

将来の農業経営面積を減らす方法は「農地を売る」と回答した世帯が45戸（34%、複数回答含む）と最も多く、続いて「農作業を委託する（担い手など）」と回答した世帯は32戸（24%、同）、「農地を貸す（利用権設定）」と回答した世帯は31戸（23%、同）となりました。



単位：戸

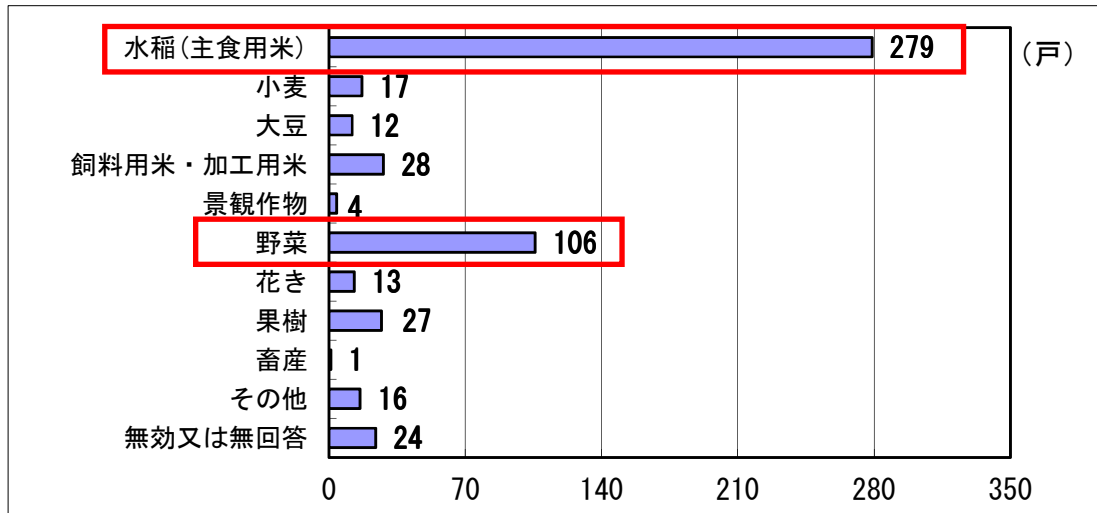
	売却	貸す	委託	農地以外	その他	無効又は無回答	計
回答者数	45	31	32	10	8	8	134
	34%	23%	24%	8%	6%	6%	100%

注) 複数回答含む

問4 耕作している作目

耕作している作目は、「水稲（主食用米）」と回答した世帯が最も多く 279 戸（53%、複数回答含む）となりました。続いて「野菜」と回答した世帯は 106 戸（20%、同）となりました。

その他の作目を回答した世帯は小数となりました。



	水稲(主食用米)	小麦	大豆	飼料用米・加工用米	景観作物	野菜	花き	果樹
回答者数	279	17	12	28	4	106	13	27
	53%	3%	2%	5%	1%	20%	3%	5%

単位：戸

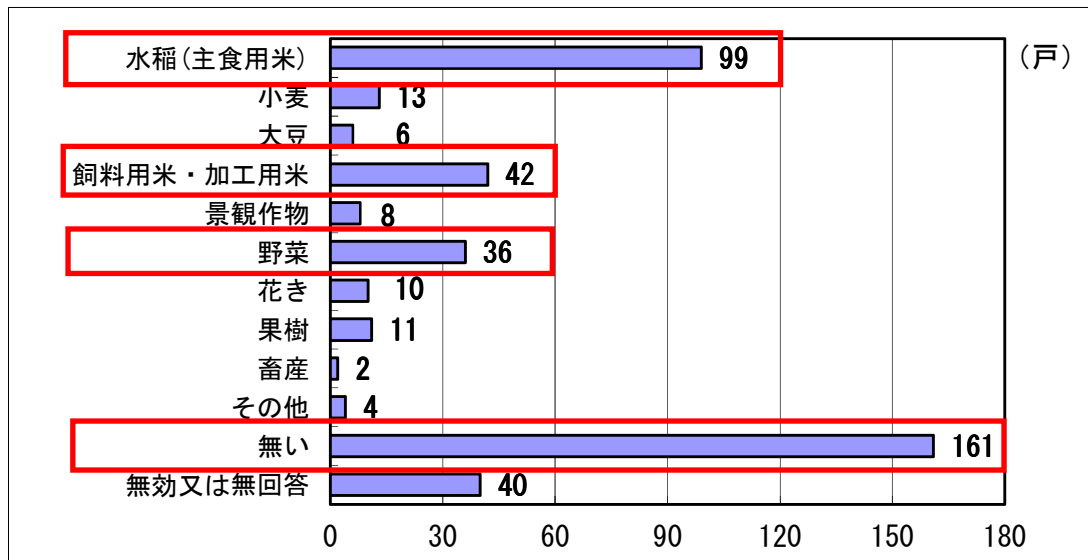
	畜産	その他	無効又は無回答	計
回答者数	1	16	24	527
	0%	3%	5%	100%

注) 複数回答含む

問5 将来伸ばしたい作物

将来伸ばしたい主な作物は、「伸ばしたい作物は無い」と回答した世帯が最も多く 161 戸（37%、複数回答含む）となりました。続いて「水稲（主食用米）」と回答した世帯は 99 戸（23%、同）、「飼料用米・加工用米」と回答した世帯は 42 戸（10%、同）、「野菜」と回答した世帯は 36 戸（8%、同）となりました。

その他の作物を回答した世帯は小数となりました。



	水稲(主食用米)	小麦	大豆	飼料用米・加工用米	景観作物	野菜	花き	果樹
回答者数	99	13	6	42	8	36	10	11
	23%	3%	1%	10%	2%	8%	2%	3%

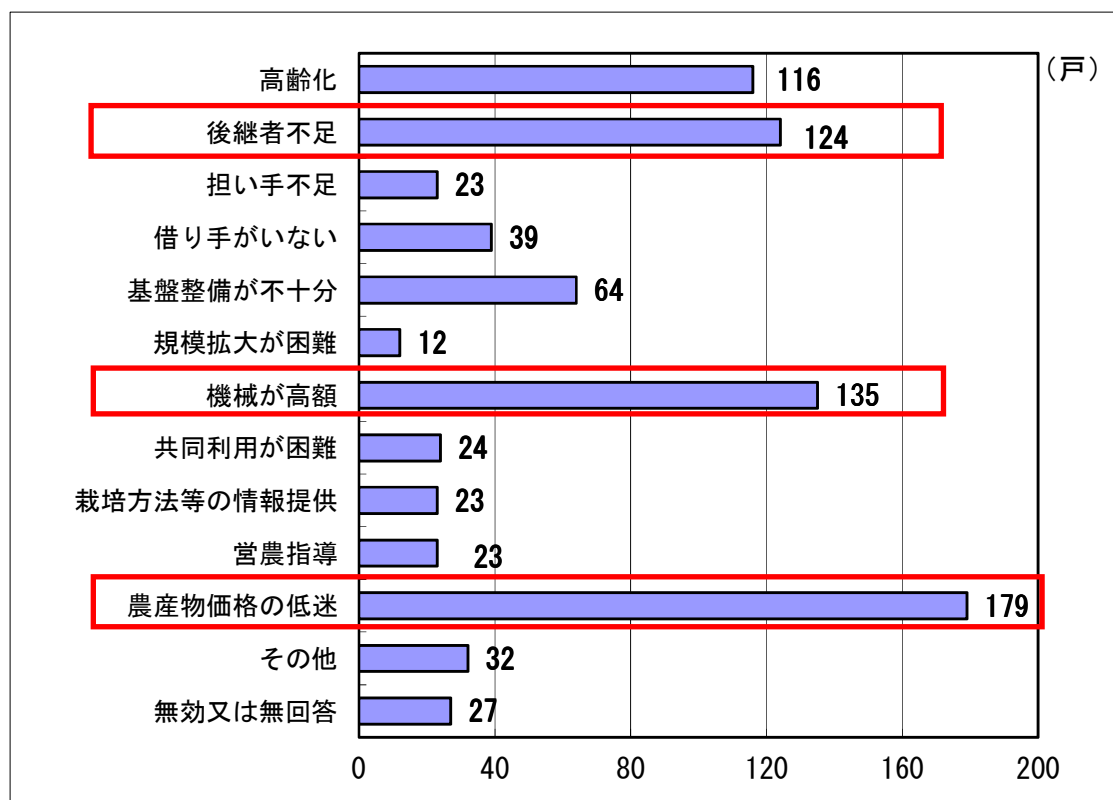
単位：戸

	畜産	その他	無い	無効又は無回答	計
回答者数	2	4	161	40	432
	1%	1%	37%	9%	100%

注) 複数回答含む

問6 普段の農作業で困っていること

普段の農作業で困っていることは、「農産物の価格が低く、収益が上がらない」と回答した世帯が最も多く179戸（22%、複数回答含む）となりました。続いて「農業用機械が高額で購入することができない」と回答した世帯は135戸（16%、同）、「農業後継者（後継ぎ）がいない」と回答した世帯は124戸（15%、同）となりました。



	高齢化	後継者不足	担い手不足	借り手がない	基盤整備が不十分	規模拡大が困難	機械が高額
回答者数	116	124	23	39	64	12	135
	14%	15%	3%	5%	8%	2%	16%

単位：戸

	共同利用が困難	栽培方法等の情報提供	営農指導	農産物価格の低迷	その他	無効又は無回答	計
回答者数	24	23	23	179	32	27	821
	3%	3%	3%	22%	4%	3%	100%

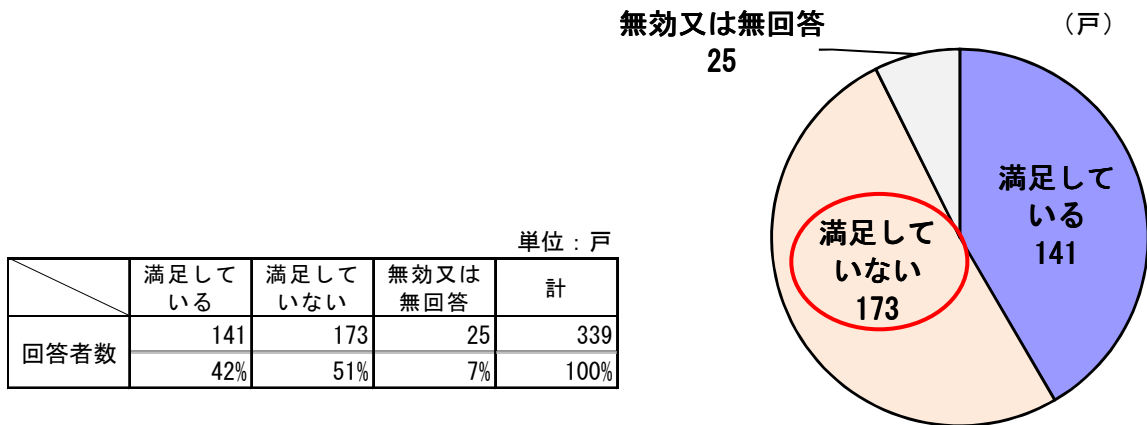
注) 複数回答含む

Ⅲ 耕作している農地について

問7 耕作している農地の現状

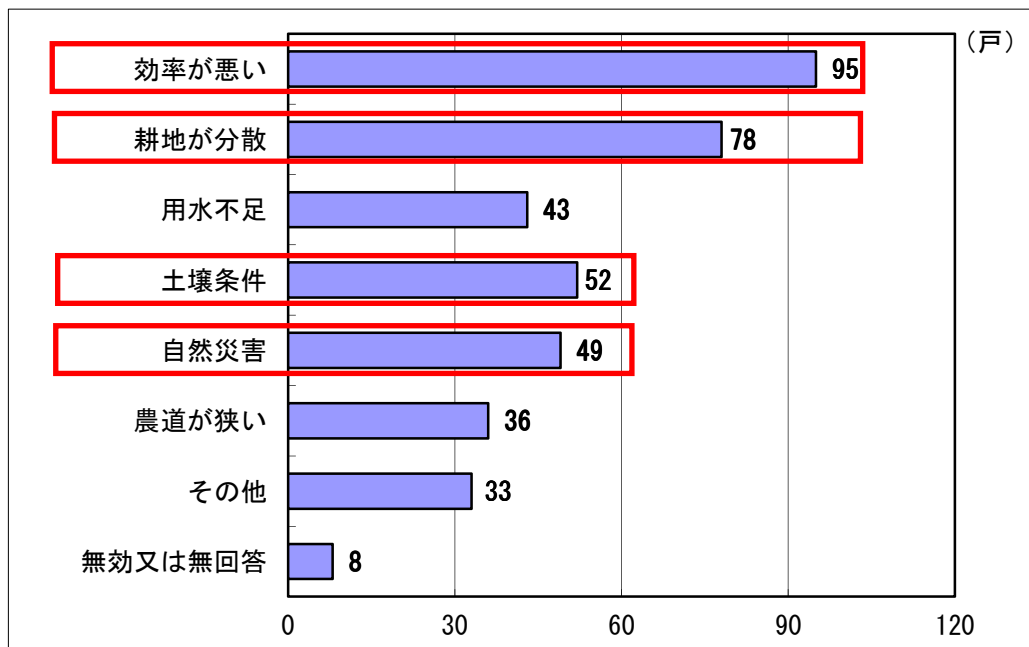
耕作している農地は、「満足していない」と回答した世帯が最も多く 339 戸中 173 戸（51%）となりました。

一方、「満足している」と回答した世帯は 141 戸（42%）となりました。



問8 耕作している農地の満足していない点

耕作している農地の満足していない点は、「区画が小さく、農作業の効率が悪い」と回答した世帯が最も多く 95 戸（24%、複数回答含む）となりました。続いて「耕作地が分散していて不便である」と回答した世帯は 78 戸（20%、同）、「排水不良、湿田など土壌条件が悪い」と回答した世帯は 52 戸（13%、同）、「大雨や台風などで、被害が及ぶ心配がある」と回答した世帯は 49 戸（12%、同）となりました。

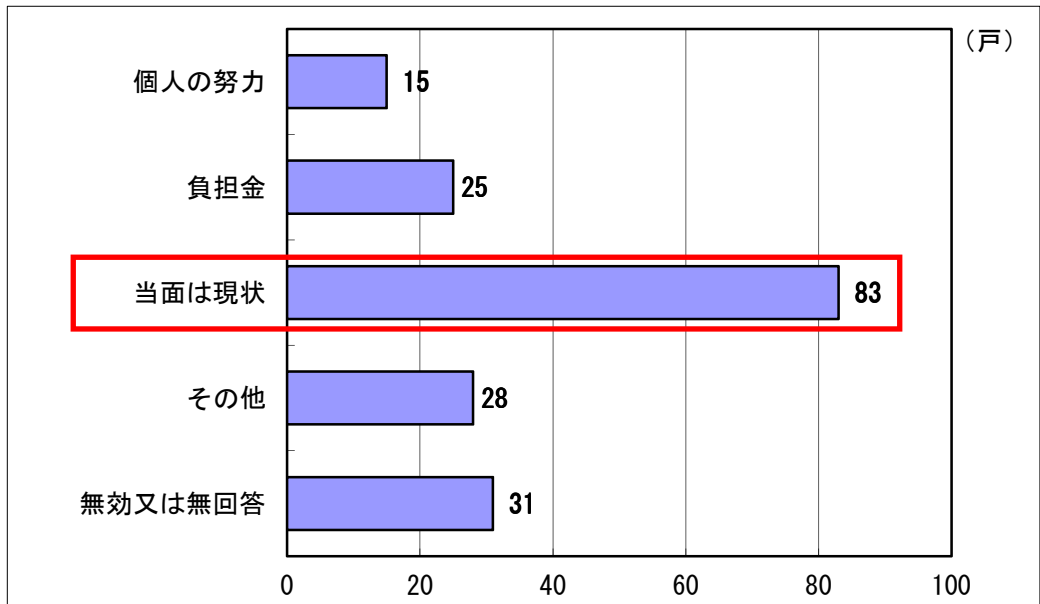


単位：戸

	効率が悪い	耕地が分散	用水不足	土壌条件	自然災害	農道が狭い	その他	無効又は無回答	計
回答者数	95	78	43	52	49	36	33	8	394
	24%	20%	11%	13%	12%	9%	8%	2%	100%

注) 複数回答含む

耕作している農地を改善する方法は、「将来は改善したいが、当面は現状のままで良い」と回答した世帯が最も多く 83 戸（46%、複数回答含む）となりました。



単位：戸

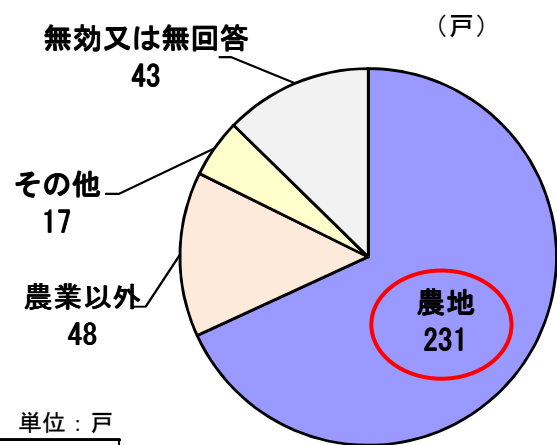
	個人の努力	負担金	当面は現状	その他	無効又は無回答	計
回答者数	15	25	83	28	31	182
	8%	14%	46%	15%	17%	100%

注) 複数回答含む

問9 将来の農地の利用

将来の農地の利用は、「従来どおり、農地として利用したい（委託も含む）」と回答した世帯が最も多く 339 戸中 231 戸（68%）となりました。

一方、「農業以外の用途で利用したい」と回答した世帯は 48 戸（14%）となりました。



単位：戸

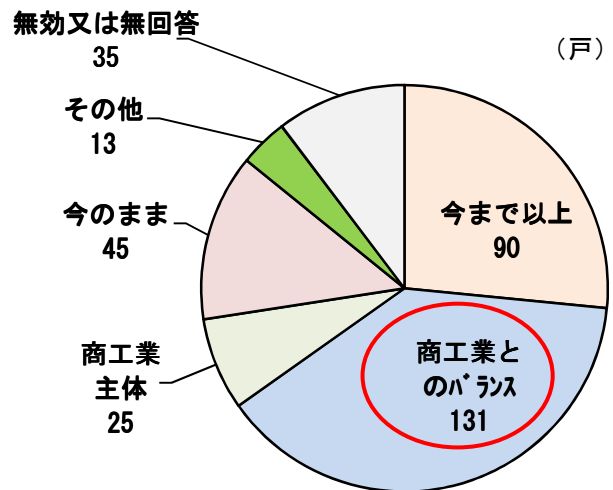
	農地	農業以外	その他	無効又は無回答	計
回答者数	231	48	17	43	339
	68%	14%	5%	13%	100%

IV 大垣市の農業振興

問10 農業振興のあるべき姿

大垣市の農業振興のあるべき姿は、「商工業とのバランスをとりながら、農業振興を図るべき」と回答した世帯が最も多く 339 戸中 131 戸（39%）となりました。続いて「農業は市の重要な産業なので、今まで以上に振興するべき」と回答した世帯は 90 戸（27%）となりました。

一方、「農業よりも商工業を主体とする産業振興策を考えるべき」と回答した世帯は 25 戸（7%）、「今のままでよい」と回答した世帯は 45 戸（13%）となりました。



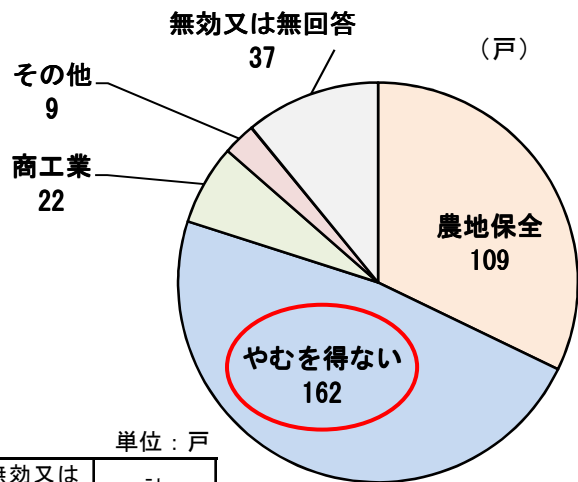
単位：戸

	今まで以上	商工業とのバランス	商工業主体	今のまま	その他	無効又は無回答	計
回答者数	90	131	25	45	13	35	339
	27%	39%	7%	13%	4%	10%	100%

問11 農地の保全

農地の保全は、「優良な農地は保全したいが、開発・活用もやむを得ない」と回答した世帯が最も多く 339 戸中 162 戸（48%）となりました。続いて「優良な農地は大切に保全するべき」と回答した世帯は 109 戸（32%）となりました。

一方、「商工業を中心とした活性化を図るために有効活用するべき」と回答した世帯は 22 戸（7%）となりました。



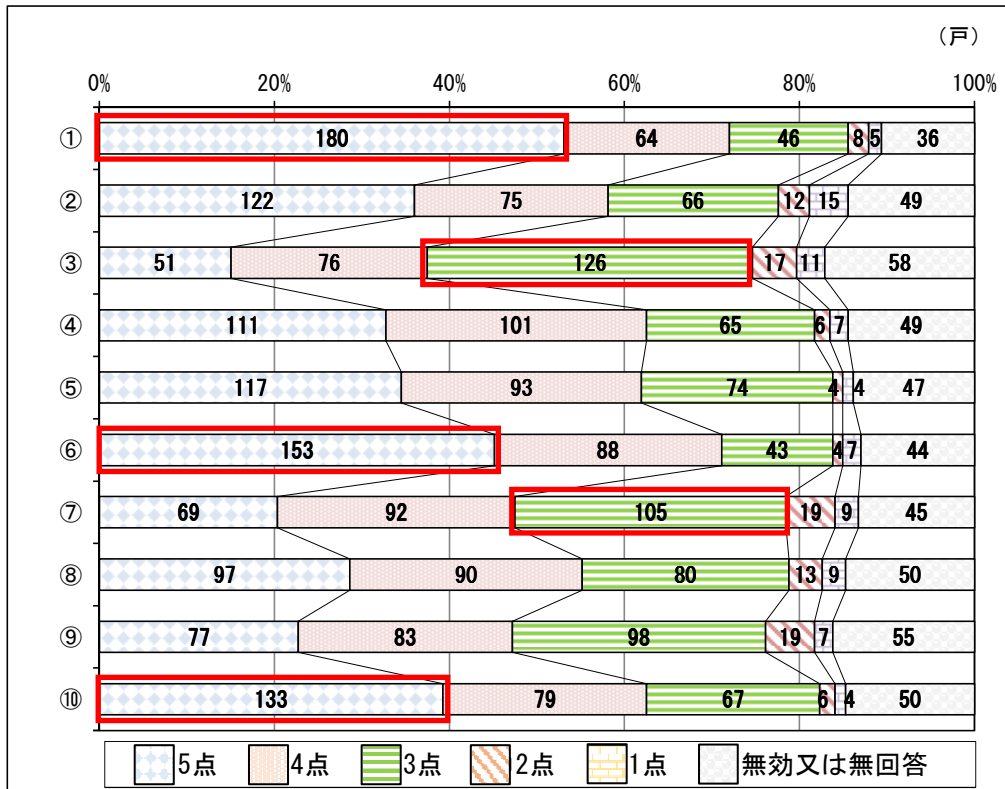
単位：戸

	農地保全	やむを得ない	商工業	その他	無効又は無回答	計
回答者数	109	162	22	9	37	339
	32%	48%	7%	3%	11%	100%

問 12 農業振興のために重要なこと

市の農業を振興する上で重要なことは、「農業の担い手育成（新規就農者・組織化など）」が重要（5点）であると回答した世帯が最も多く 339 戸中 180 戸となりました。続いて「地産地消の推進（直販路の拡充・学校給食での利用など）」が重要（5点）であると回答した世帯は 153 戸、「農村風景や自然環境の保全（景観形成・災害を軽減する保水機能の維持など）」が重要（5点）であると回答した世帯は 133 戸となりました。

一方、「施設栽培の推進」は、どちらでもない（3点）と回答した世帯が最も多く 126 戸となりました。続いて「都市と農村の交流（市民農園・体験農園など）」は、どちらでもない（3点）と回答した世帯が 105 戸となりました。



単位：戸

項目	評価（点数）					無効又は無回答	計
	重要である 5点	重要でない 4点	どちらでもない 3点	どちらでもない 2点	重要でない 1点		
① 農業の担い手育成（新規就農者・組織化など）	180	64	46	8	5	36	339
② 農地の面的集積	122	75	66	12	15	49	339
③ 施設栽培の推進	51	76	126	17	11	58	339
④ 減農薬栽培など環境保全型農業の推進	111	101	65	6	7	49	339
⑤ 食農教育の推進	117	93	74	4	4	47	339
⑥ 地産地消の推進（直販路の拡充・学校給食での利用など）	153	88	43	4	7	44	339
⑦ 都市と農村の交流（市民農園・体験農園など）	69	92	105	19	9	45	339
⑧ 新たな特産農産物の開発	97	90	80	13	9	50	339
⑨ 加工品の開発（6次産業化など）	77	83	98	19	7	55	339
⑩ 農村風景や自然環境の保全（景観形成・災害を軽減する保水機能の維持など）	133	79	67	6	4	50	339